

君津市国際交流協会 会報

No. 3

Kimitsu International Exchange Society (KIES)

1997年1月発行

〔発行〕KIES 〔編集〕総務委員会
〒299-11 君津市久保2-11-21 Tel. (54) 9877

郵便物やFAXは下記へ

君津市企画部国際交流室
〒299-11 君津市久保 2-13-1
FAX (56) 1628 TEL (56) 1265



〔写真提供：君津市〕

深緑の坂田緩衝緑地帯キャンプ場で、一皆で楽しく」と会員がアイデアを出しあって開いた第1回野分パーティー。姉妹都市候補地の中国とニュージーランドの代表も東京から駆けつけてくれ、君津市在住の諸外国の人も集まって、異文化の交流を深めあった。(7月28日)

フラッシュ
'96年

この友情、情熱、行動力で

1997年も



国際交流で人づくり、郷土づくりに貢献しようと姉妹都市選定に努力(北京市房山区訪問 8月26～30日)

「水と緑のまち」づくりに協力



すばらしい街づくり目指して商工会議所が主催した「第1回ふれあい祭り」に参加。星空の下、楽しく踊って雰囲気明るく盛り上げた。(8月3日)



人も木も小さい
ときから育てよう。



会長 前田ヒサ

昨年は会員相互で日本語、中国語等の語学講習会が熱心に続けられ、多くの市民との親睦や、在住外国人との交流も次第に増えてまいりました。

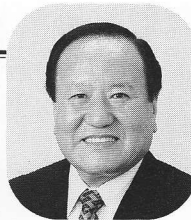
千葉国際高校にもアメリカの高校生5名が先生1名とホームステイで訪れ、3週間を当地で過ごしました。彼等は

交流で学んだこと

「来るまでの1年間、親に頼らずアルバイトで旅費を貯め、日本にきました」と語っていましたが、ホストファミリーの同年生徒の家で、楽しく日本語と英語を交わしながら、普段の生活を体験しました。「短い期間だが、日本の友達と日本語の勉強ができてうれしい」また「君津市は想像以上に自然環境が美しい」と訪日の喜びを語っていました。

アメリカの少年たちが感じた美しい自然と温かい人情を、君津の誇りにして、些細な事柄でも国際交流のお役に立つよう努力していきたいと思っております。

「来るまでの1年間、親に頼らずアルバイトで旅費を貯め、日本にきました」と語っていましたが、ホストファミリーの同年生徒の家で、楽しく日本語と英語を交わしながら、普段の生活を体験しました。「短い期間だが、日本の友達と日本語の勉強ができてうれしい」また「君津市は想像以上に自然環境が美しい」と訪日の喜びを語っていました。



名誉会長 若月 弘

国際交流協会が設立以来、各委員会を中心に、会員各位の皆様は幅広く活動を展開され、異文化の交流を図られました。そうした中、昨年4月には待望の事務所がオープンをいたしまして、ますます協会活動が整備充実されてまいりましたことは、まことに喜ばしいことであります。

世界が集う君津に

今年もさらに多彩な活動を繰り広げられますよう、ご期待申し上げますとともに、念願となっております友好姉妹都市の選定に向け、一層のご精進を賜りたいと存じます。

市といたしましても、世界が集い交流する君津市の創造を目指して、外国人に対するやさしい街づくりや、外国人との交流活動のための施策を推進して、それぞれの地域の特色を踏まえつつ、文化、青少年、婦人、経済、スポーツなどの具体的な交流を皆様とともに促進して参りたいと存じます。

おめでとうございます 今年も交流の場を広げましょう



顧問 溝口辰造

昨年中は、皆様の深いご理解とあたたいご支援によりまして、議会としての使命を果たすことができましたことを厚くお礼申し上げます。

平成も9年を迎え、

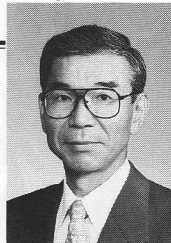
我が国の経済情勢は景気が回復基調に転じたように見えるものの、まだまだ一進一退の動き

くものと思われる7年9月に設

国際交流協会は、姉妹都市候補の選定の調査、研事業活動を積極しましたことに対して感謝を申し上げます。

また、本年は東京湾横断道路の開通にともない、今後、より多くの人口増が期待され、ますます国際交流の輪が拡大されるものと思いますので、役員の皆様方におかれましては、3年目を迎え各分野において、積極的に事業の推進にご尽力されますようお願い申し上げます。

活発な活動に感謝



顧問 王寺睦満

若月市長の肝入りで発足し、協会の事務所も定まり、本格的に取組みを進めておられることに敬意を表します。その発展を期し、顧問の立場からできるだけ

ご協力をしてゆきたいと思ひます。

私は30歳前後のころに社命で5年間弱、当時の西ドイツに滞在したことがあり、人たちが企業とヨーロッパの文会があったこととして、まことた経験でした。

姉妹都市の選画が進んでいるできるだけ若い世代の人々の交流に力を入れていただきたいものだと思います。

とかく日本人は「外国」というと、すぐに欧米に目が向きがちですが「これからはアジアの時代」といわれる今日、同じアジアの一員として、この新しい潮流を十分に考えて、国際間の交流を深めていくべきでしょう。

若い世代に機会を



顧問 柳井良次

私はブラジルの松柏学園と交流を図る海外交流推進協議会会長も勤めています。平和と友好を願い、世界に眼を向ける青少年の育成に思いをはせているからです。

昨年発刊した小櫃中学校創立50周年記念誌に、同校1年生の森明美さんの作文が載っています。彼女が小学生ということだけで、命や心を育てようという決意、小学校教師になる決意、顔や肌の違いを乗り越えて差別を乗り越えて、流血と破壊を繰り返しているアフリカ、中東、東欧がそれを物語っているのではないのでしょうか。

当協会の日本語教室では外国人の生徒と和気あいあいに学びあっていると聞きます。当協会が理解と思ひやりのモデルとなって、この1年をさらに活躍されるよう願っています。

理解と思ひやりで



北京市房山区を訪ねて

友好交流調査団 芝崎 栄一

昨年8月、芝崎栄一、榎沢賢二、坂元淳一の皆さんが、友好姉妹都市候補地の一つ「中国北京市房山区」を視察。その房山区役所前で、後列右から3人目が焦区长、中央が筆者。

房山区はまだ発展途上の都市であり、焦志忠区長始め関係者との数次に及ぶ意見交換で、「君津市の皆さんの訪問を歓迎します。君津市とは、市民、行政、企業、個人、あらゆるレベルでの平等互惠の交流を望んでいます。この〈縁〉を大事にしたい。このことを君津市民の皆様に伝えてください」とお願いされました。

確かに中国は社会体制や人権などに関して、さまざまな問題を抱えていますが、日本と中国は「一衣帯水」、「同文同種」の関係であり、21世紀は中国の時代ともいわれ、12億の人口を擁する隣国中国を理解するためにも、「房山区」と交流することは有益だと感じています。

房山区は北京市から42km西南に位置し、面積は2019km²、人口76万人。「六山一水三畑」といわれるように、60%が山、10%が水田、30%が畑です。広大な場所を限られた日数なので、代表的な場所のみの視察になりました。

工業をみると、燕山東流水工業開発区の石油コンビナートで11の企業が操業、香港やUSAとの合弁企業があり、従業員は400人(21世紀までの目標は1000人)。また特別経済開発区として良郷工業開発区があり、外国から23の投資があります。さらに大理石・レンガ・石炭・セメントなどの工場があり、大理石の歴史は古く、1300年代の故宮の建設にすべて房山区の大理石が使用されているとのことでした。

商業は区の中心部が発達、生活必需品は豊富なようです。

農業は北京市の食料基地として発達、中国の中で最も重要な農業地域として、国から永続農業地域の指定を受けています。畜産については牧畜が発達、豚の生産はかなり高度化し、牛、羊、鶏など飼育頭数も多いようです。



工業開発区を視察、活気あふれる雰囲気だった。



キウイ栽培地を視察、広大な農地に目をみはった。

野外パーティー in Kimitsu

君津の国際化を実感 嶋田 徳一

昨年7月に「野外パーティーに参加しないか」とKIESから声がかかりました。私たちボーイスカウトは地域から地区、県、日本、世界へと繋がった組織で、君津第2団には104名が在籍、キャンプ生活などを通じて、自立心ある青少年を育てていることを理解されてのことだろうと思いました。

参加して多数のボランティアが会場設営や料理を支援、アトラクションにも出演されていたのに目を見張りましたが、

ボーイスカウト
君津第2団
団委員長



参加の中国代表(左端とニュージーランド代表(右2人)に、記念の花束や和紙人形を贈呈した。

中でも羊の丸焼きには一同びっくりしました。

中国やニュージーランドからも代表が見え、インドネシアの人たちがコーラスでハモったり、ブラジルの人々のサンバにつられて腰をふったり、日本人も負けずにハワイのフラダンスを踊ったり、真夏のひとときは思い出深いものでした。君津も外国との《縁》が深くなったのだと実感しました。

ボーイスカウトは外国を訪れたときに受けた親切を忘れずに、日本で暮らす外国人に親切できるよう心がけていますが、KIESともども手を取りあっていきたいと思います。



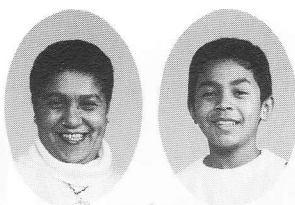
ブンガワン・ソロをハモってくれたインドネシアの人たち

◆外国人登録者数は昨年11月末現在で、625名(26ヵ国、511世帯)です。



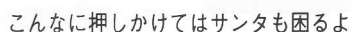
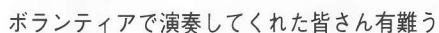
← サンバを踊る
マリーゼさん

がんば！ 沢江さん一家！

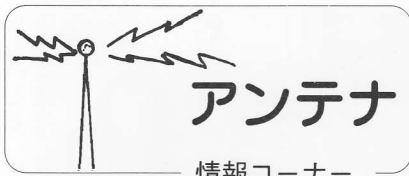
[illegible]

'96 Xmas パーティー 開く❗

楽しいことは共に喜び、物が少ないときは1つを2つにしてでもわかちあって楽しむという心懸けがパーティーを思い出深くするものと思います。



◆ K I E S 会員数は昨年11月末現在で、個人会員417名、法人（団体）会員24名です。入会はいつでも受付けています。年会費は個人千円、法人（団体）は1万円です。



1 周年記念シンポ



昨年9月29日(日)、君津市消防署大会議室にて1周年記念シンポジウムを行いました。“私の異文化体験”のテーマで、小泉アメリカさんが「3歳の時の夢を追って」、ラッセル・キースさんが「日本人に薬になる話」、許妍さんが「中国と日本の架け橋になって」、松岡哲也さんが「HOW TO カナダ留学」と題して発表しました。

言葉の問題や初めての経験で戸惑いもあったでしょうが、皆さん一所懸命発表してくださいました。当日は70名の参加者が熱心に耳を傾け、質問も活発に行われました。留学志望の高校生が「話を聞くと大変そう…」と感想をもらし、ちょっと慌てた一幕もありましたが、きっとプラスの面もあったことと思います。

事前の準備不足や当日のハプニング等、問題もありましたが、参加者の皆様の協力により何とか終えることができました。この経験を生かし、次回はより良い会を実現させたいと思います。

(西本昭子)

中国語教室の近況



昨年6月に始まった語学委員会主催の中国語教室の受講生は、今約25名、スタッフは5名(内2名が講師)です。受講内容は、初心者を対象とした内容

になっています。例えば、発音練習、初歩の会話などです。教科書も使っていますが、それにとらわれず講師の裁量で自由に変えています。教室から中国語の歌が聞こえてくることもあります。確かテレサ・テンの「夜来香」だったかと思います。

講師は中国人女性の許妍(キョケン)さんが中心となり、男性の藤森さん(中国語教師免許所持)が側面からサポートしています。

10月からは「教室だより」を発行して教室内の相互交流をし、また中国について情報交換をしています。皆さんは簡単な会話ができるように努力していますので、いつの日か中国で中国の友人たちと交流する日がくるでしょう。

(森山一三)

歴史と旧家の探訪



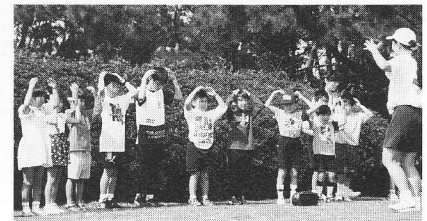
しとしと雨の降る中でのバスハイクでしたが、“雨の君津”はなかなか風情がありました。寺務員の岩間照種さんの案内で回った神野寺は、日本語教室の生徒さん達にも、興味深かったようですし、杉の大木に囲まれた三島神社の境内は頼朝の時代を髣髴とさせるものがあり、とても美しかったです。

また午後からは、試飲を楽しみにしていた藤平酒造。美しい女性社長と頼もしい息子さん3人が説明してくださった後にいただいたお酒は、最高。いくらでもいけそうでした。ほろ酔い気分で次に伺った鎌田邸では、温かいもてなしを受け、築116年という邸宅内には、芸術的な欄間や箱階段を上がって入る屋根裏部屋など珍しいものを見させていただきました。

今年もまた違う所を見つけて“ふるさと再発見”したいと思いました。“こんな所、知ってるヨ”という方がいらしたら、教えてくださいな!

(岡田摩早子)

キッズピクニック

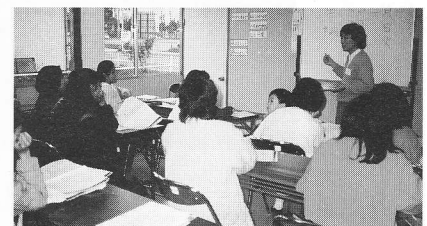


昨年10月12日に富津公園で行いました。この行事の直前に急逝された佐藤先生のお元氣な電話のお声が想い出されます。“今度はキッズが主人公だよ。タイトルを何にしようか”と。

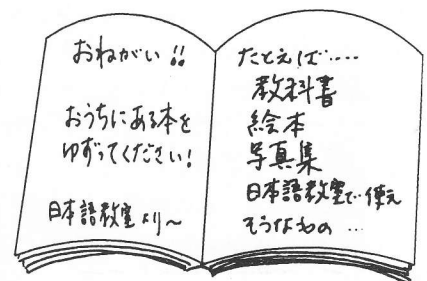
当日は親子約40名と、AETの先生イベットさんが富津公園で遊びました。10月なのでアメリカの子供たちのお祭り《ハロウィーン》を紹介しました。これはイギリス、アイルランドに住んでいたケルト族が、10月の終わりに収穫を祝い、新しい年を迎えるために行っていたお祭りで、18世紀に移民がアメリカに広めたのです。

異文化が好きで創造的な子は、たとえ日本語の洪水の中にも、外国語を身につけることができるといわれています。今回、参加した子供たちが英語で自己紹介をしていたのにはびっくり。今後も有意義な交流を進めて行きたいと思います。(杉田志津香)

日本語は5クラス



各クラスとも「教室」というより「家庭」という雰囲気です。授業を進め、単に言葉の勉強だけでなく、お互いの国の理解を深めあっています。



わが家の収穫

岡

和彦



意外にも1人が肉も魚もダメ。目玉焼きで食事がすんだ。

良くも悪くも“いい経験だった”。これは国際交流活動の実践の1つとして一丁やってみようという考えと、わが家の子供たちにとっても、「外国人と接する」ということが、どういうことなのかを経験させてみようという動機からであった。初めての経験で、音楽祭を含めて3日間をただ一所懸命、誠心誠意のおもてなしをした。負担があるのは正直否めないが、尽くしたという達成感を経験した者にしか分からない。お役目を終えた日の夜、ドッと疲れが出たが決して不快な疲労感ではなかった。

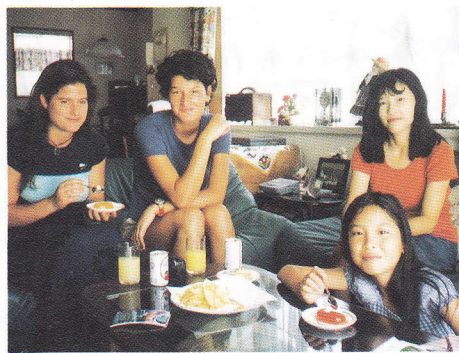
ただ、彼女たちが帰国して以後、一通の「礼状」も寄こさないのは、ときどき見られる日本人と同じかなと思った。

“あちらの作法?”を知ったのも収穫といえる。

異国の文化に触れあうことは、興味のある反面、緊張もする。今回は昨年8月にドイツのミュンスター大学の学生たちを2人1組で自宅に宿泊させ、異文化交流を体験

日常ペースで

松尾範子



食事のときには「いただきます」と日本語で。礼儀正しい2人。

マライケとデニヤという2人の女性でした。2人共とてもオシャレで、1人は鼻ピアスをしていて、手足のお手入れもバッチリ(2年ほどドイツに住んでいたことがあるけど、ムダ毛の処理がしてある女性に出会ったことがない)、超現代っ子でした。しかし、しつけの厳しいお国がら、お行儀がとても良く、食事は何を作っても「おいしい」ときれいに食べてくれました。海と東京湾観音に連れて行きましたが、特に海は、前の日から楽しみにしてくれて喜んでました。かたこと英語と、主人のつたないドイツ語を交じえて、いろんな話をしました。いつもの生活ペースで過ごしたので、気楽に一緒になって楽しむことができました。また機会があったら……。

私の国際交流体験
ホストファミリー

された4人の会員の方に語ってもらった。学生たちは、かずさ青年会議所が君津市民文化ホールで「かずさの森音楽会」を開いたときのオーケストラの演奏者。

良き思い出に

井窪陽子



8月の暑い最中、私たちの家に2人のドイツ人学生がやってきた。うちに外国人がやってきたのは初めてではなかったが、泊まるというのは初めてだったのでやはり心配だった。

わが家にやってきたのは、ザビーネとバーバラという同年代の女の子たちだった。年が近いということ、それから私のドイツ語がまだ使えるということが判明したので心配も飛んでいったし、彼女たちもリラックスできたようだった。3日間^{なかび}の中日に休暇を取って銚子の方へドライブに、私の母をメンバーに入れて4人で出かけた。2人のうちバーバラはかなり日本語ができたので母とバーバラ、私とザビーネという感じで話し込んだり、海辺で長い間たずんでみたり、楽しい1日となった。短い期間だったが打ちとけることができ、私の両親にとっても良い思い出となった。

3日間、快く協力してくれた父と母に、またさわやかな良い思い出を残してくれた彼女たちに感謝の気持ちでいっぱいである。

日本が見える

友松由美子



ぶらりと東京見物にドイツ女性2人を案内した友松さん一家

丸1日あったフリーの日には、モニカとイーナの2人とともに新宿・浅草方面へ遊びに行きました。2人とも初めて見る東京が、大変良い思い出になったようでした。

でも、私が一番感心したのは、彼らの堅実さでした。身に着ける物もブランドではなく、友達からももらったツギハギのジーンズを大切にはいていました。次に物おじせず自分の意見をはっきりと言い、そしてテレビは持たずに、本をよく読む。日本の若者と比べると、ずっと彼女たちが大人に思えました。外国の人たちと話すことで日本のことが見えてくる、そんな体験をさせていただいた気がします。ドイツ語を勉強して、数年後には是非ミュンスターを訪れ、成長した彼女たちに会ってみたいと思います。